

高松塚・キトラ両古墳の整備活用、発掘調査の整理活用について

○発掘調査の整理および活用：高松塚古墳

新施設における展示活用を目指して、発掘調査で得られた資料・データの整理を進めている。

1) 水準杭切り取り資料台座作成

SX223：上下2段分と上・下重ねて配置する2パターンを作成

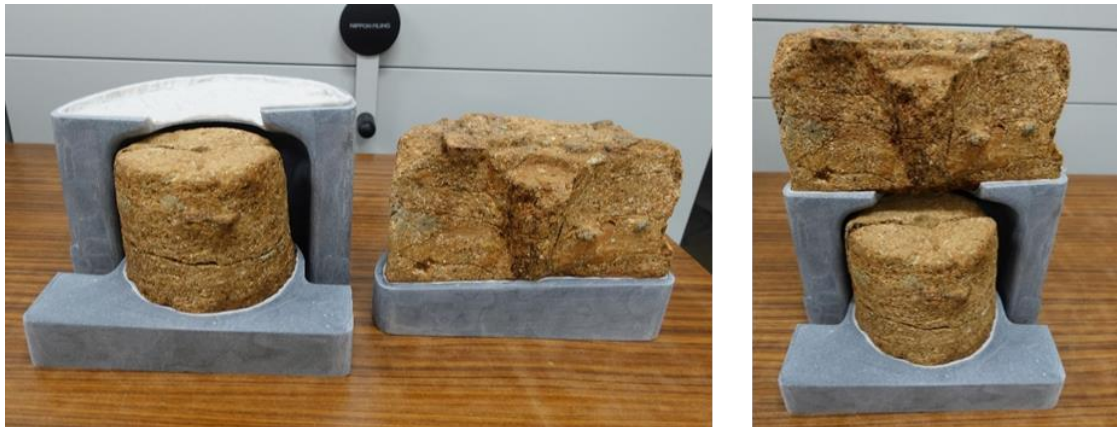


図1 台座作成状況（塗装等の仕上げ作業前）

2) 発掘調査成果を中心とする三次元CG作成

- ①発掘調査区と仮整備状況を統合した三次元モデルの作成
- ②修理後の壁画画像を用いた高松塚古墳石室の復元モデル作成

3) 昭和47年発掘調査の出土品（飛鳥資料館展示資料）の再整理

- ①鏡・棺金具関係、玉類の一部を三次元計測（刀装具は昨年度実施）
- ②細部写真撮影、X線透過撮影、蛍光X線分析等を実施する。
- ③三次元計測データを活用し、現在の研究水準に即した図面作成をおこなう。

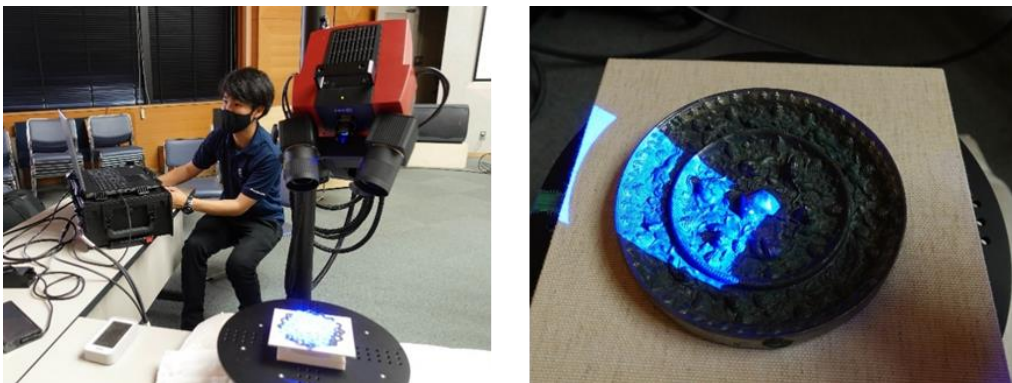


図2 昭和47年度出土品の三次元計測作業風景

○発掘調査の整理及び活用：キトラ古墳

1) 石室内出土棺材漆片の安定化作業

①石室床面から出土した漆塗木棺片の取り外し作業

適切な保存処理を実施するため、事前に撮影したX線CT画像などを参考にしながら、重なり合っていた破片を一枚ずつ取り外した。

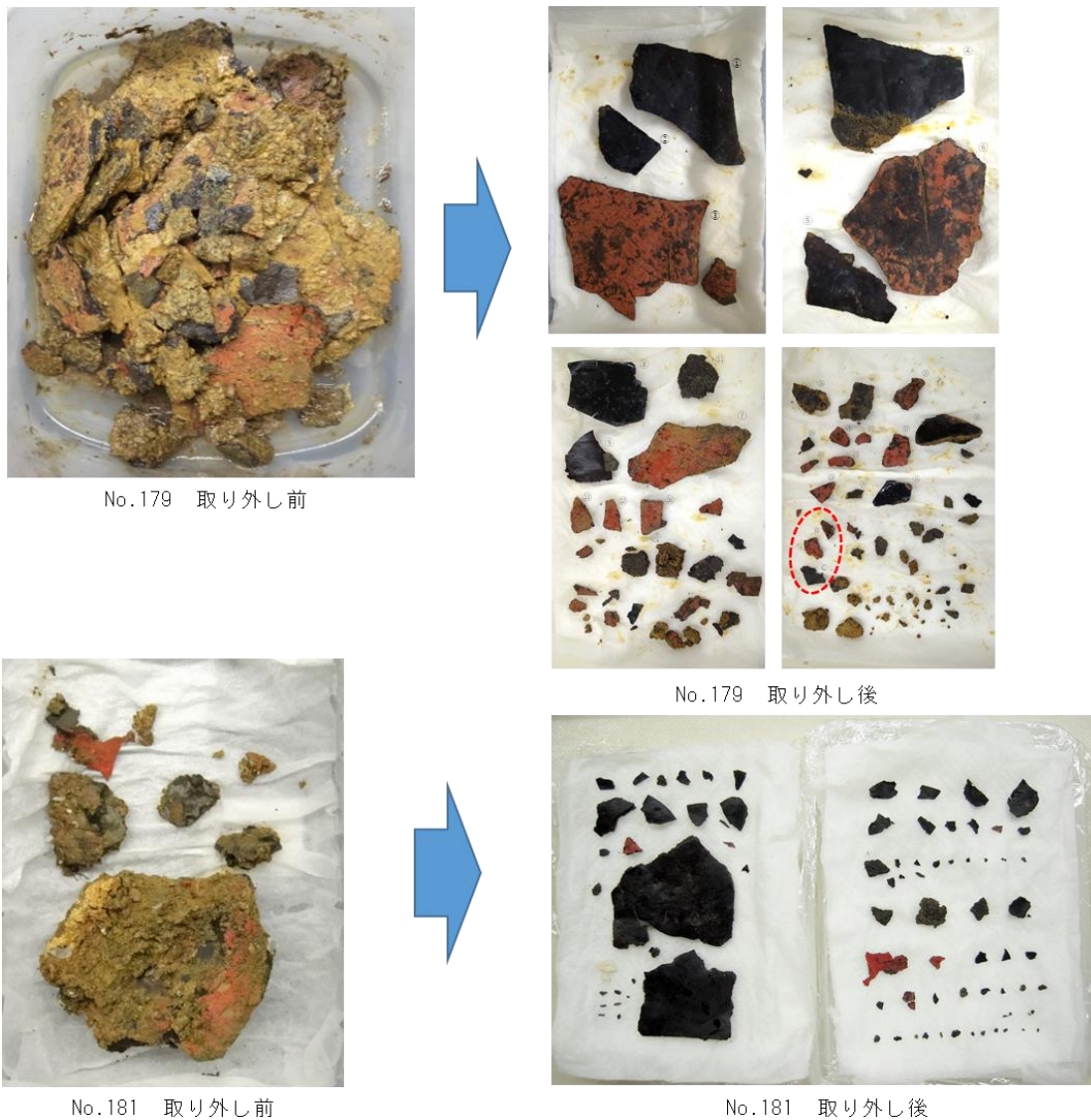


図3 棺材漆片の取り外し状況

②漆片の写真撮影・実測図作成

③保存処理に向けた漆片選別 (図3の赤色破線で囲った資料)

2) キトラ古墳墳丘調査写真のデジタル化

平成9年に明日香村教委が実施した墳丘調査時の写真フィルムのデジタル化を進める。

3) キトラ古墳墳丘調査区の三次元モデル作成

デジタル化した画像や遺構実測図をもとに、発掘調査区の三次元モデルを作成する。

○四神の館における国宝キトラ古墳壁画の活用

キトラ古墳壁画の第19回公開（5月22日～6月20日）、第20回公開（7月24日～8月22日）において、壁画とともに解説パネル・出土遺物・模型等を展示した。また、壁画の解説映像・音声解説ナレーションを製作した。広報物等としてチラシ、ポスター、解説リーフレット、クリアファイル、感染症対策ちらしを作成した。解説リーフレットは英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語を用意して外国語対応を充実させた。

第21・22回公開についても同様な対応をするとともに、第21・22回公開の期間中にキトラ天文図を解説する移動プラネタリウムのイベントを実施する予定である。

壁画非公開期間においても展示室の公開を実施し、年末年始には正月展示を行う予定である。また、四神の館開園5周年事業に協力する。

このほか、キトラ古墳壁画保存管理施設の日常的な管理運営と、ホームページの運営を行っている。



図4 第19回公開の展示室

○キトラ古墳の整備活用

1) 整備後の墳丘の経過観察

墳丘整備竣工時（平成 28 年）に墳丘全体に植栽したコグマザサの活着は不良であった。その後、墳丘下段に法面保護の芝張りを施し、上段はコグマザサを補植した。現在まで、育成状況の経過観察を行っている。



（平成 31 年 3 月補植直後（南から））



（令和 3 年 7 月（南から））

図 5 特別史跡キトラ古墳墳丘の植栽状況

経過観察の結果は下記のとおり。

- ・下段・張り芝施工部は、時間の経過とともに良好に活着し、周辺地形と馴染んできている
- ・上段・ササ補植部は衰退傾向であり、上段もノシバへの遷移が考えられる

2) 獣害対策調査

キトラ古墳墳丘の植栽は、昨年度よりイノシシによる掘り起こしの被害が確認されている。今年度、史跡等における全国の獣害対策について情報を収集し、キトラ古墳での獣害対策の参考にする。

3) 墳丘現地の活用（キトラ古墳遺跡見学・乾拓体験会）

国営飛鳥歴史公園との共催で整備された墳丘見学や乾拓体験を年 4 回の公開に合わせて進めている。今年度は春の公開時に一日実施した。秋、冬の実施は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から状況をみながら判断する。

○高松塚古墳の整備活用

1) 保存整備・活用に関する情報収集

今年度は高松塚古墳の今後の整備等に参考となる事例について、文献調査を中心に情報収集を行う。

2) 国宝高松塚古墳壁画乾拓板の活用

昨年度、全10種類の乾拓板が完成したことを受けて、今年度は春の公開にあわせて男女の群像4点を使った乾拓体験会を国営飛鳥歴史公園との共催で実施した。墳丘仮整備や乾拓板の説明などを事前収録した解説ビデオを参加者に視聴いただくなど、新型コロナウイルス感染防止に十分配慮して実施した。



図6 公園館前テント



図7 乾拓体験の様子(5月)